



出逢った時から変わらない頼れるスタッフへの安心感
「子どもたちも楽しそうにしているし建てて良かった」



Come Home Story

ご入居後の
お宅訪問
No.025
カムホームストーリー
香南市
3年3ヶ月後のNさん家
設計担当:岡本 理絵



「スタッフさんの印象は、最初から最後まで変わりませんでした」

約7年前、タイセイホームが朝倉に移転し、オープンさせたZESTインテリアショップの広告チラシを見て「行ってみたい」と思ったという奥さま。のちに新聞広告k+に載っていた見学会情報を見つけ、同じタイセイホームだということを知りドライブがてら足を伸ばしました。今でも覚えているのが「話しやすくも家づくりへの思いを真剣に話してくれた社長」や「子どもたちにも気をかけてくれて、感じが良かった」というスタッフたちのこと。他社にもまわり自分たちの建てたい家のイメージを少しずつ固めていき、いろいろと検討する中で、「他では伝わらなかった自分たちの好みや思いを、岡本さん（設計コーディネーター）はすぐに分かってくれた」と話す奥さま。心のもやもやがスッと取りのぞかれ、家づくりはスッキリ前向きなまでに、楽しみながら進んでいく打合せでも「やっぱり信頼できるなと思った」と、出逢った時から変わらない頼れるスタッフへの安心感が、決め手となったNさまの家づくりです。

「こうやって見ていると、やって良かったなあと思いますね」

Nさま邸のシンボルとも言えるのが、リビングダイニングの中心に伸びるのぼり棒。旦那さまがどうして子どもたちのためにこだわったポイントです。最初は2階の子供部屋からそのまま移ってスルルと降りる仕組みでした。しかし「部屋からすぐよりは…」と現場を仕上げる大工さんから、ロフトから一段下りたスペースから降りられるようにと提案をもらい「棟梁が細かいところまで気を配ってくれて良かった」と嬉しそうに話す奥さま。子供部屋の小さな扉から繋がる秘密基地のようなロフト、ロフトからはのぼり棒でも階段でも上り下りすることができ、家の中でも毎日が公園気分。元気に遊びまわり、にぎやかな毎日です。「こうやって遊んでいるのを見ると、やって良かったなあと思いますね」と温かい親心を覗かせる旦那さまです。帰宅後、すぐうがいが手洗いができるように、玄関から廊下をつき当たったところに独立させた洗面台を「いいよね」と顔を見合わせのご夫妻。「水が散ることを考えて」とキッチン用の大きなシンクを選び、お湯と水が簡単に操作できるように選んだレバー水栓もシンクの内側に取りつけ、水が外に落ちないように考えました。たくさん種類のなかから迷って選んだというタイトルは「洗面所って女性の場所って感じがするから」と温かみのあるピンク系の色をチョイスし、インテリア雑貨で装飾した一味違うガーリーフレンチ風にアレンジ。「夜は上の窓から月が見えるんですよ」とロマンチックな雰囲気うっとり嬉しそうな奥さまです。

「前の家は湿気がすごかったけど、今は全然感じない」

奥さまが仕事で弾くことがあるというグランドピアノ専用のお部屋は、荷重に耐えられるよう床を補強し、音への配慮も忘れず壁を工夫しました。弾いている間は「全然気にならんね」と旦那さま。奥さまは気兼ねなく自由に打ち込むことができ、眠っていたピアノも息を吹き返し美しい音色を奏でます。「仕切らなくて良かった」と、2つの子供部屋で家族5人が並んで寝ているというNさまご一家。一方で、空き部屋になっている寝室は、雨の日に洗濯物を干すランドリールームに。「前の家は湿気がすごかったけど今は全然感じないし、部屋干しですぐ乾くのでビックリしました、すごい」と話す奥さま。家全体に調湿効果のある漆喰の塗り壁や無垢の床材を使ったことで、年中カラッとした空気が続き「冬場はヒーター1台で大丈夫です」と省エネ効果も実感しています。「これいい!」と図面を見て飛び込んできたというキッチンまわりの動線。キッチン横からすぐに勝手口ではなく、奥にパントリーをつくり駐車場へ出られるようにし、外から荷物を運び入れやすく食料や灯油なども十分に置けるスペースを確保しました。奥さまは「写真を見るよりやっぱり見学会で実際に見たほうがいい、あとは家を建てた人に話を聞くのも参考になる」とアドバイス。「子どもたちも楽しそうにしているし建てて良かった」と、一生に一度の家づくりを楽しみ、味わうNさまご家族の暮らしです。